

# 発達期待と養育態度が母親の読み聞かせの意義の認識と 読み聞かせの方法に与える影響

島 義弘\*・浦田愛子\*\*

(2013年10月22日 受理)

## Effects of mothers' developmental expectations and parenting attitudes on recognition of meanings and methods of reading picture-books.

SHIMA Yoshihiro, URATA Aiko

### 要約

本研究では、母親の発達期待や養育態度が絵本の読み聞かせに対する意義の認識や読み聞かせの方法に与える影響について検討した。第一子が幼稚園に通う母親161名を対象に質問紙調査を行ったところ、自律性関係性重視の社会化目標が高いほど配慮型の養育態度がとられやすく、読み聞かせに対して情緒的意義を見出していたが、読み聞かせ方には直接影響していなかった。一方、達成重視の社会化目標が高いほど強制型の養育態度がとられやすく、情緒的側面とともに知的側面での意義を見出していたが、読み聞かせ方には直接影響していなかった。また、配慮型の養育態度は知的・情緒的両側面での読み聞かせの意義を認め、子どもを受容し、対話を重視した読み聞かせを行っているのに対して、強制型の養育態度は読み聞かせの意義・方法のいずれにも影響を与えていなかった。以上のことから、絵本の読み聞かせは直接的には母親の養育態度の影響を受けるが、養育態度の背後には子どもに対する発達期待が存在すること、発達期待は養育態度を介さずに、直接読み聞かせに影響を与えることもあることが示された。実際の読み聞かせ行動についての調査や子どもの発達について縦断的研究が今後の課題である。

**キーワード**：発達期待，養育態度，読み聞かせの意義，読み聞かせの方法

---

\* 鹿児島大学教育学部 講師

\*\* 埼玉県立久喜図書館

## 問題と目的

絵本の読み聞かせは個体の生存に必須の活動ではなく、行動選択の自由が各家庭にゆだねられている社会文化的な行動である(秋田・無藤, 1996)。しかし、実際には9割近くの児童生徒が小さいころに母親から絵本の読み聞かせをしてもらった経験があり(文部科学省, 2004)、多くの家庭で日常的に行われている活動であると言える。

絵本の読み聞かせは子どもが最初期に経験する読書活動であるが、この、幼少期に絵本の読み聞かせをしてもらうという経験は子どもの共感性や協調性を育てるなど、情緒や対人関係の発達に寄与し(今井・坊井, 1994; 植田・濱野, 2004)、その後の主体的な読書活動にもつながるものである。主体的な読書活動は子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことができないものであるとされ(文部科学省, 2001)、こうした将来的な読書活動の推進のためにも幼少期に絵本の読み聞かせをしてもらうという経験は大きな役割を担う。

それでは、子どもに絵本を読み聞かせる主体である母親はなぜ、あるいはどのようにして絵本の読み聞かせを行っているのだろうか。

実のところ、絵本の読み聞かせに関する研究では、その実態や効果に関する研究が多く、行動選択の主体である母親の意識に焦点を当てたものは少ない。そこで、本研究では絵本の読み手である母親に焦点を当て、母親が絵本の読み聞かせにどのような意義を見出しているのか、また、行動選択の背景にどのような要因が存在するのかを検討することを目的とした。具体的には、母親が子どもに対して抱く発達期待や母親の養育態度が、絵本の読み聞かせに見出す意義や具体的な方法の差異を生み出しているのではないかと考えた。

### 発達期待

発達期待とは、「子どもの様々な行動や能力の発達に関して親が抱く期待」である(森下・本島, 2004)。この、親が子どもに対して抱く発達期待は、種々の親行動に結びつくことが知られている。例えば、村瀬(2009)は親の発達期待によって子どもに対する行動が異なり、自律性や関係性を重視した発達期待を持つ親は子どもに共感的な言葉かけをし、達成を重視した発達期待を持つ親は物事の実用的な側面を重視した関わりをする傾向があることを示している。

このことから、絵本の読み聞かせに関しては、自律性や関係性を重視した発達期待が高いほど対人関係や共感性などの情緒面の発達を促進するような方法を取り、達成重視の発達期待が高いほど文字や知識の獲得などの知的発達を促進するような方法をとる傾向があるものと考えられる。

### 養育態度

養育態度とは、親などの養育者が子どもを育てる際に取る態度・行動である(南, 1999)。

養育態度の分類は種々あるが(例えば Baumrind, 1991), 内田・李・周・朱・浜野・後藤(2011)は共有型・強制型・自己犠牲型の3分類を提案している。共有型は子どもを大人と対等な人格を持った存在としてとらえ, 子どもとの触れ合いを大事にし, 親子で楽しい経験を共有したいと願い, 親子の会話を重視して子育てをするタイプである。強制型は大人の思いで子どもの生き方を決めようとするなど, 権威主義的な統制を子どもに押し付けるような関わり方をするタイプである。自己犠牲型は生活のすべてが子どものためであり, 自分のことは我慢して子どもに尽くす態度をとるタイプである。

このような養育態度の個人差と絵本の読み聞かせに見出す意義や絵本の読み聞かせ方の個人差との関連については先行する知見は存在しないが, 各養育態度の定義に照らして鑑みると, 共有型の養育態度をとる母親は子どもとの対話を重視し, 情緒的な発達を促進するような読み聞かせを行うのに対して, 強制型の養育態度をとる母親は知的発達を促進するような読み聞かせを行う傾向があるものと考えられる。

また, 母親の養育態度の背後には発達期待があり, 自律性や関係性を重視した発達期待が高いほど共有型の養育態度をとり, 達成重視の発達期待が高いほど強制型の養育態度をとる傾向があるものと考えられる。

## 本研究の仮説

以上のことから, 本研究では母親の発達期待と養育態度が絵本の読み聞かせに見出す意義や絵本の読み聞かせ方に与える影響について検討する。仮説は次のとおりである。

まず, 発達期待については自律性や関係性を重視した発達期待が高いほど共有型の養育態度をとり(仮説 1-1), 情緒的な側面に意義を見出し(仮説 1-2), 子どもとの相互作用を重視した読み聞かせ方をする(仮説 1-3)ものと考えられる。一方, 達成重視の発達期待が高いほど強制型の養育態度をとり(仮説 2-1), 知的側面に意義を見出し(仮説 2-2), 子どもとの情緒的な交流は重視されない(仮説 2-3)ものと考えられる。さらに, 共有型の養育態度は情緒的側面での意義の認識と関連し(仮説 3-1), 子どもとの対話を重視した読み聞かせを行う傾向があり(仮説 3-2), 強制型の養育態度は知的側面での意義の認識と関連し(仮説 4-1), 子どもとの対話を重視しない傾向があるものと考えられる(仮説 4-2)。

## 方法

### 調査協力者

A 県内の幼稚園に第一子が通園している母親 161 名 ( $Mean\ Age = 33.84, SD = 4.07$ ) を対象に質問紙調査を行った。子どもの年齢と性別は 3 歳児 23 名 (男児 13 名, 女児 10 名), 4 歳児 48 名 (男児 25 名, 女児 23 名), 5 歳児 52 名 (男児 26 名, 女児 26 名), 6 歳児 37 名 (男児 23 名, 女児 14 名), 不明 1 名であった。

## 調査内容

1. 発達期待：村瀬（2009）で用いられた社会化の目標に関する質問9項目（項目例：「思いやりのある子どもになってほしい」、「すなおな子どもになってほしい」）を使用した。「まったくそう思わない=1」から「非常にそう思う=7」までの7件法で回答を求めた。この尺度は「自律性関係性重視社会化目標」と「達成重視社会化目標」の2因子で構成されている。

2. 養育態度：内田他（2011）で用いられた養育態度尺度18項目（項目例：「子どものことに、じゅうぶん気を配っている」、「子どもがすべきことをちゃんとしてしまうまで何回でも指示する」）を、質問表記を一部改変して使用した。「あてはまらない=1」から「あてはまる=3」までの3件法で回答を求めた。この尺度は「共有型」、「強制型」、「自己犠牲型」の3因子で構成されている。

3. 読み聞かせの意義・目的：秋田・無藤（1996）が作成した読み聞かせの意義尺度19項目を使用した。この尺度は読み聞かせの目的に関する質問（項目例：「子どもが本の世界を楽しむため」、「子どもが空想したり夢を持てるようにするため」）と読み聞かせの利点に関する質問（項目例：「文字を覚えられる」、「ことばが増える」）が含まれている。「そう思わない=1」から「とてもそう思う=5」までの5件法で回答を求めた。この尺度は「文字・知識習得」意義と「空想・ふれあい」意義の2因子に分かれている。

4. 読み聞かせの方法：村瀬（2004）で用いられた絵本の読み聞かせ方7項目（項目例：「ゆっくり読むようにしている」、「声の調子を色々変えて読むようにしている」）を使用した。「まったくそうしていない=1」から「よくそうしている=6」までの6件法で回答を求めた。この尺度は「対話的読み聞かせ方」と「受容的読み聞かせ方」の2因子で構成されている。

## 結果

### 尺度構成

養育態度尺度については項目の表記を改変しているため、因子分析による尺度構成の確認を行った。因子分析（主因子法、プロマックス回転）の結果、固有値の減衰（3.47, 2.45, 1.57, 1.27, …）と解釈可能性から2因子が妥当であると判断した。第1因子は先行研究と同じ項目で構成されていたため、先行研究に倣い「強制型」とした。第2因子は先行研究で「共有型」「自己犠牲型」とされていた項目がまとまっていたため、第1因子との対比で「配慮型」と命名した。因子分析の結果は Table 1 に示した。

Table 1. 養育態度の因子分析結果

	F1	F2
F1: 強制型		
子どもがすべきことをちゃんとしてしまうまで何回でも指示する	.74	.00
子どもが言いつけどおりにするまで, 何回でも言う	.74	-.05
子どもに, 何度もどんなふうにしたらよいかを, ことこまかに言い聞かせる	.59	.01
子どもに, 自分の言いつけを守らせている	.58	.05
子どもには, できるだけ私の考え通りにさせたい	.45	-.15
子どもに対しては, きまりをたくさんつくり, それをやかましく言わなければいけないと思う	.44	-.05
子どもの行儀をよくするために叱るのは, 正しいことだと思う	.37	.04
子どものした悪いことは, みな, 何かの形で叱るべきだと思う	.37	.13
F2: 配慮型		
子どもにたびたび話しかける	-.08	.59
うちで子どもと楽しい時間を過ごす	-.10	.58
子どもが喜びそうなことを, いつも考えている	-.03	.54
子どものことに, じゅうぶん気を配っている	.21	.46
子どもと一緒に, 外出や旅行をするのが好きだ	-.07	.44
じぶんにとって, 子どもが何よりも大切だ	-.02	.39
自分のことは我慢しても, 子どものためにしてあげることがよくある	.07	.38
私の全生活は, 子どもを中心に動いている	.16	.36
負荷量平方和	2.64	1.98
因子間相関		.22
削除された項目: 「子どもがこわがっているときには安心させるようにする」「子どもに, 自分で物事を決めさせるようにしている」		

その他の尺度については, 先行研究と同様の因子構造であると仮定し, 発達期待は「自律性関係性重視社会化目標」と「達成重視社会化目標」の2因子, 読み聞かせの意義・目的は「文字・知識習得」と「空想・ふれあい」の2因子, 読み聞かせの方法は「対話的読み聞かせ方」と「受容的読み聞かせ方」の2因子とした。各因子の平均値 ( $M$ ) と標準偏差 ( $SD$ ), 信頼性係数 ( $\alpha$ ) 等は Table 2 に, 各因子の相関は Table 3 に示した。いくつかの因子については信頼性係数が満足のいく値とはなっていなかったが, 先行研究で報告されている値と大差ないこと, 項目数が少ないことを考慮して, 本研究では原版の尺度構成を踏襲することとした。

Table 2. 各尺度の平均値 ( $M$ ), 標準偏差 ( $SD$ ), 信頼性係数 ( $\alpha$ ) と得点範囲 ( $range$ ), 項目数

	$N$	$M$	$SD$	$range$	$\alpha$	items
発達期待						
自律性関係性重視社会化目標	161	6.50	0.41	1-7	.65	6
達成重視社会化目標	159	5.30	0.80	1-7	.62	3
養育態度						
強制型	158	1.95	0.36	1-3	.76	8
配慮型	158	2.53	0.30	1-3	.69	8
読み聞かせの意義・目的						
文字・知識習得	155	3.99	0.59	1-5	.92	12
空想・ふれあい	157	4.13	0.47	1-5	.74	7
読み聞かせの方法						
対話的読み聞かせ方	159	4.40	0.81	1-6	.75	4
受容的読み聞かせ方	160	4.72	0.67	1-6	.54	3

Table 3. 各尺度の相関

	1	2	3	4	5	6	7
1 自律性関係性重視社会化目標							
2 達成重視社会化目標	.448 ***						
3 強制	.160 *	.198 *					
4 配慮	.325 ***	.151	.193 *				
5 文字・知識習得	.347 ***	.517 ***	.223 **	.258 **			
6 空想・ふれあい	.452 ***	.312 ***	.039	.331 ***	.509 ***		
7 対話	.203 *	.123	.052	.396 ***	.225 **	.193 *	
8 受容	.172 *	.013	-.051	.416 ***	.136	.361 ***	.555 ***

\*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

$N = 153-160$

### 発達期待、養育態度と読み聞かせの意義・方法との関連

次に、発達期待（「自律性関係性重視社会化目標」、「達成重視社会化目標」）と養育態度（「強制型」、「配慮型」）が読み聞かせの意義や方法にどのように影響を与えているのかを検討するために、回答に不備のない149名（ $Mean\ Age = 33.78$ ,  $SD = 4.04$ ）を対象に、Amos 21を使用して共分散構造分析を行った。

飽和モデルを仮定し、有意ではないパスを逐次的に削除した結果、Figure 1に示すモデルが高い適合度を示した（ $\chi^2(10) = 1.19$ ,  $p = .292$ ;  $GFI = .981$ ;  $AGFI = .930$ ;  $RMSEA = .036$ ）。Figure 1より、自律性関係性重視の社会化目標が高いほど読み聞かせに空想・ふれあい意義を見出し、達成重視の社会化目標が高いほど文字・知識習得と空想・ふれあいの2つの意義を見出していることが示された。また、自律性関係性重視の社会化目標は配慮型の養育態度を、達成重視の社会化目標は強制型の養育態度を導き、配慮型の養育態度は読み聞かせに関する2つの意義と2つの方法のすべてに正の影響を与えることが示された。以上のことから、発達期待は直接読み聞かせの意義の認識に影響を与えるのみではなく、養育態度を介して読み聞かせの意義や方法に影響を与えていることが示された。

### 考察

本研究では母親の発達期待と養育態度が絵本の読み聞かせに見出す意義や絵本の読み聞かせ方に与える影響について検討した。その結果、自律性関係性重視の社会化目標が高いほど配慮型の養育態度がとられやすく（仮説1-1を支持）、空想・ふれあいといった情緒面での意義を見出していたが（仮説1-2を支持）、読み聞かせ方には直接影響していなかった（仮説1-3を棄却）。一方、達成重視の社会化目標が高いほど強制型の養育態度がとられやすく（仮説2-1を支持）、情緒的側面とともに文字・知識習得といった知的側面での意義を見出していたが（仮説2-2をおおむね支持）、読み聞かせ方には直接影響していなかった（仮説2-3を棄却）。また、配慮型の養育態度は知的・情緒的両側面での読み聞かせの意義を認め（仮説3-1をおおむね支持）、子どもを受容し、対話を重視した読み聞かせを行っているのに対して（仮説3-2を支持）、強制型の養育態度は読み聞かせの意義・方法のいずれにも影響を与えていなかった（仮説4-1、

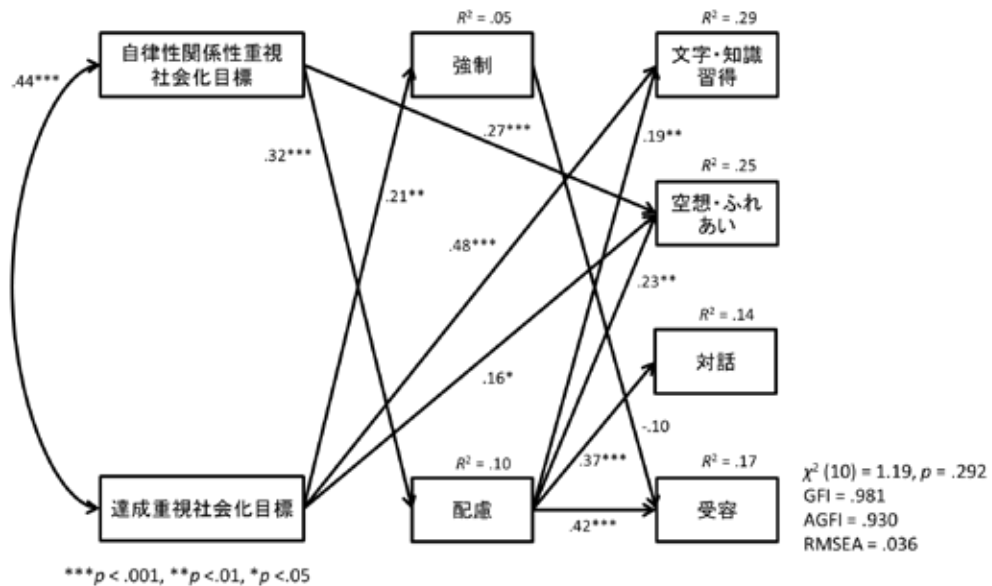


Figure 1. 発達期待と養育態度が読み聞かせの意義と方法に与える影響についてのパス図。

注1 誤差項は省略した。

注2 強制型養育態度から受容の読み聞かせ方へのパスは有意ではなかったが、このパスを削除しない場合の適合度が削除した場合よりも高くなったため、削除しなかった。

4.2 を棄却)。

絵本の読み聞かせに対して母親が見出す意義は文字・知識習得といった実用的で知的なものと空想・ふれあいといった情緒的・関係的なものがあるが、文字・知識習得には配慮型の養育態度と達成重視の発達期待が、空想・ふれあいには配慮型の養育態度、および自律性関係性重視と達成重視の2種類の発達期待がそれぞれ直接影響を与えていた。発達期待から読み聞かせの意義への直接の影響は、絵本の読み聞かせをしてもらうという経験が子どもの情緒的、対人関係的な側面での発達や知的発達を促す(今井・坊井, 1994; 植田・濱野, 2004)という効果が母親にも意識的にせよ無意識的にせよ理解されており、母親が持つ発達期待に沿った形で読み聞かせが行われ、結果としてその期待が実現される可能性を高めているものと考えられる。これは、発達期待が直接的には親行動に結び付いていないにもかかわらず、子どもの行動は親の発達期待と合致した形で獲得されているという森下・本島(2004)の報告と一致するものである。また、配慮型の養育態度は子どもの主体性や意図、子どもとの関わりを重視したものであり、このような養育態度を持つ母親は読み聞かせに対して知的・情緒的両側面の意義を見出しているものの、権威主義的な強制型の養育態度は読み聞かせの意義の認識とは関連しなかった。強制型の養育態度をとる親は早期教育に対する投資額が多いという報告もあり(内田他, 2011)、読み聞かせよりも直接的な「教育」を重視する傾向が反映されたものと考えられる。

また、読み聞かせの方法に関しては、発達期待と強制型の養育態度からの直接の影響は認め

られず、配慮型の養育態度からの直接の影響と、その背後にある自律性関係性重視の発達期待からの間接的な影響が認められた。子どもの主体性や意図、子どもとの関わりを重視した養育態度をとる母親ほど、絵本を媒介として子どもとの対話を楽しんだり、子どもの絵本に対する態度（絵本を読むように要求する、絵本に描かれている事物を指さしたり声に出したりするなど）に応えたりしていることが示された。さらに、こうした養育態度の背景には自律性関係性重視の発達期待が存在していることも示された。本研究の結果は、自律性や関係性を育みたいという発達期待が配慮型の養育態度を導き、配慮型の養育態度が対話的で受容的な読み聞かせを促進するというを示している。

以上のことから、絵本の読み聞かせの意義の認識や読み聞かせの方法は直接的には母親の養育態度によって規定されていること、養育態度の背後には母親が子どもに対して抱く発達期待が存在することが示された。また、発達期待は養育態度を介さずに読み聞かせの意義に影響を与えることもあることが示された。発達期待と養育態度がそれぞれ直接、絵本の読み聞かせの方法や意義の認識に影響を与えるとともに、発達期待が養育態度を規定し、それが読み聞かせに影響するという媒介効果も見られるという本研究の結果は、社会文化的な活動である絵本の読み聞かせが直接的には顕在的な養育態度の影響を受けるものの、その養育態度は母親自身が持つ子どもに対する発達期待によって規定されることを示している。特に、自律性や関係性を重視した発達期待を持ち、子どもの意図や人格を重視した養育態度をとることがより積極的な読み聞かせ行動につながり、結果として子どもの発達が促進される可能性が示唆された。

このような結果は、乳児を「心」をもった存在であるとみなし、「心」に焦点を当てて子どもと関わろうとする傾向である Mind-Mindedness が高いほど母子相互作用場面において乳児の内的状態に対する言及が多く（篠原，2006，2008），子どものアタッチメントスタイルが安定型になる確率が高く（Meins, Fernyhough, Fradley, & Tuckey, 2001），心の理論等の認知発達も良好である（Meins, Fernyhough, Wainwright, Das Gupta, Fradley, & Tuckey, 2002）など、母親が「乳児」に焦点化した関わりをすることが子どものより望ましい発達を導くという知見とも類似したものであると考えられる。

### 本研究の課題と今後の展望

本研究では母親を対象として調査を行ったが、実際に子どもに読み聞かせを行っているのは母親だけではない。絵本・子育て・読み聞かせを応援するコミュニティサイト「mi :te（ミーテ）」が公表したアンケートによると、母親以外にも読み聞かせをする家庭は全体の80%にのぼり、そのうち48%は父親が読み聞かせを行っている。子どもが経験している読み聞かせの実態により近づけるためには、父親をはじめとする他の大人たちの発達期待や読み聞かせに対する意義等を調べる必要があるだろう。

また、本研究では母親の意識に焦点を当てており、実際にどのような読み聞かせが行われているのかは明らかにならない。また、親の発達期待や養育態度が読み聞かせの意義や方法に影



響を与えることは示されたが、それらが読み聞かせをしてもらう子どもたちにどのような影響を与えているのかも検討されていない。実際の読み聞かせ行動の観察や子どもの知的・情緒的発達についての縦断的研究を行うことで、読み聞かせの意義や効果をより明確に示すことができるだろう。

## 引用文献

- 秋田喜代美・無藤 隆 (1996). 幼児への読み聞かせに対する母親の考えと読書環境に関する行動の検討 教育心理学研究, **44**, 109-120.
- Baumrind, D. (1991). The influence of parenting style on adolescent competence and substance use. *Journal of Early Adolescence*, **11**, 56-95.
- 今井靖親・坊井純子 (1994). 幼児の心理解に及ぼす絵本の読み聞かせの効果 奈良教育大学紀要 (人文・社会科学), **43**, 235-245.
- Meins, E., Fernyhough, C., Fradley, E., & Tuckey, M. (2001). Rethinking maternal sensitivity: Mothers' comments on infants' mental processes predict security of attachment at 12 months. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, **42**, 637-648.
- Meins, E., Fernyhough, C., Wainwright, R., Das Gupta, M., Fradley, E., & Tuckey, M. (2002). Maternal mind-mindedness and attachment security as predictors of theory of mind understanding. *Child Development*, **73**, 1715-1726.
- 南 博文 (1999). 養育態度 中島義明・安藤清志・子安増生・坂野雄二・繁榊算雄・立花政夫・箱田祐司 (編著) 心理学辞典 有斐閣 p. 862.
- 文部科学省 (2001). 子どもの読書活動の推進に関する法律 (平成 13 年法律第 154 号)
- 文部科学省 (2004). 親と子の読書活動等に関する調査 報告書 財団法人日本経済研究所
- 森下正修・本島優子 (2004). 子どもの行動実現に対する親の発達期待と叱る行為の影響 福祉社会研究 (京都府立大学), **4・5**, 41-51.
- 村瀬俊樹 (2004). 乳児への絵本の読み聞かせについての信念に関する研究—公共図書館の養育者向けガイド文書の日米比較— 社会文化論集 (島根大学法文学部紀要社会文化学科編), **1**, 53-60.
- 村瀬俊樹 (2009). 1 歳半の子どもに対する絵本の読み聞かせ方および育児言語の使用と母親の信念の関連性 社会文化論集 (島根大学法文学部紀要社会文化学科編), **5**, 1-17.
- 篠原郁子 (2006). 乳児を持つ母親における mind-mindedness 測定方法の開発—母子相互作用との関連を含めて— 心理学研究, **77**, 244-252.
- 篠原郁子 (2008). 母親の mind-mindedness と母子相互作用および 9 ヶ月乳児の共同注意の発達 京都大学大学院教育学研究科紀要, **54**, 234-246.
- 内田伸子・李 基淑・周 念麗・朱 家雄・浜野 隆・後藤憲子 (2011). 幼児期から学力格差は始まるか—しつけスタイルは経済格差要因を凌駕しうるか—【児童期追跡調査】日本 (東京)・韓国 (ソウル)・中国 (上海) 比較データブック お茶大・ベネッセ共同研究報告書 No. II.
- 植田佳菜・濱野恵一 (2004). 読み聞かせの経験及び読書量が子どもの性格特性に及ぼす影響 児童臨床研究所年報 (ノートルダム清心女子大学児童臨床研究所), **17**, 50-57.

## 付記

本論文は、第二著者が鹿児島大学教育学部に提出した平成 24 年度卒業論文を第一著者が加筆修正したものである。調査にご協力いただいた保護者の皆さまと幼稚園の先生方に感謝申し上げます。